

別記 剣道用具の規定

出場選手は、剣道用具について、下記事項を厳守すること。

1 竹刀の長さ、重さ、太さについては、下記「表1」、「表2」のとおり

表1 竹刀の基準（一刀の場合）

		対 象	中学生	高校生 (相当年齢の者も含む)	大学生・一般
長さ		男女共通	114センチメートル以下	117センチメートル以下	120センチメートル以下
重さ		男 性	440グラム以上	480グラム以上	510グラム以上
		女 性	400グラム以上	420グラム以上	440グラム以上
太さ	男性	先端部最小直径	25ミリメートル以上	26ミリメートル以上	26ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	20ミリメートル以上	21ミリメートル以上	21ミリメートル以上
	女性	先端部最小直径	24ミリメートル以上	25ミリメートル以上	25ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	19ミリメートル以上	20ミリメートル以上	20ミリメートル以上

表2 竹刀の基準（二刀の場合）

		対 象	大学生・一般	
			大 刀	小 刀
長さ		男女共通	114センチメートル以下	62センチメートル以下
重さ		男 性	440グラム以上	280～300グラム
		女 性	400グラム以上	250～280グラム
太さ	男性	先端部最小直径	25ミリメートル以上	24ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	20ミリメートル以上	19ミリメートル以上
	女性	先端部最小直径	24ミリメートル以上	24ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	19ミリメートル以上	19ミリメートル以上

※ ピース(四つ割り竹)の合わせに大きな隙間のあるものや安全性を著しく損なう加工、形状の変更したものは使用不可

2 竹刀の先革長、先革先端部最小直径値、ちくとうの直径値の測定方法(下図参照)



3 面について

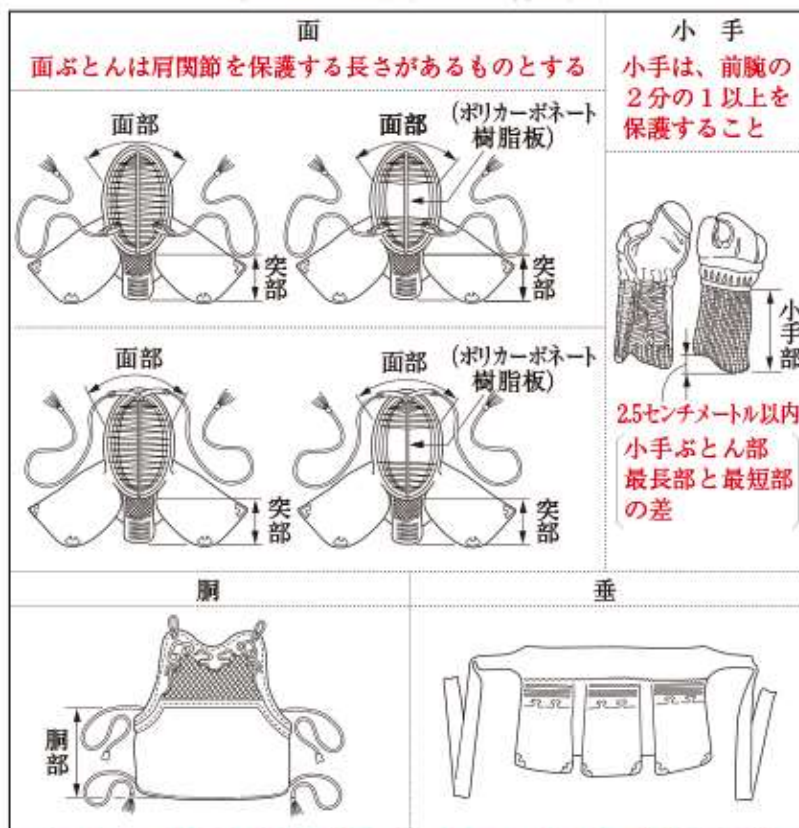
面ぶとんは、安全性を保つため、肩関節を保護する長さがあり、十分な打突の衝撃緩衝能力があるものとする。（下記 第3図参照）

4 小手について

小手は、こぶしと前腕（肘から手首の最長部）の2分の1以上を保護し、安全性を保つため小手頭部および小手ぶとん部は十分な打突の衝撃緩衝能力があること。

小手ぶとん部のえぐり（クリ）の深さについては、小手ぶとん最長部と最短部の長さの差が2.5センチメートル以内とする。（下記 第3図参照）

第3図 剣道具および打突部位



※面ぶとん、小手頭部および小手ぶとん部は十分な打突の衝撃緩衝能力があるものとする。

5 剣道着について

剣道着の袖は、安全性を保つため、肘関節を保護する長さを確保したものとする。（構えたときに肘関節が隠れること。）